

# リペア会が一般社団法人に 安全な社会基盤の再構築を

## 設立記念講演会開く



土木・建築構造物の補修改修技術の研究開発に努め、その成果を市場に反映すべく切磋琢磨（せつさたくま）してきた任意団体「リペア会」が8日、一般社団法人として新たなスタートを切った。同日午後、大阪市北区の大阪国際会議場で設立記念講演会が開かれ、写真上、代表理事会長に

就任した大塚久哲九州大学名誉教授（大塚社会基盤総合研究所代表取締役）らが道路の維持管理などをテーマに講演した。

リペア会は、土木・建築構造物の維持補修を効果的に行い、少子高齢化時代の国土を健全に保ち続けられるように日々努力している会社・個人により14年に設立。活動に公平性と公共性を持たせるため、8日に一般社団



大塚会長

法人に移行することになった。補修改修技術の研究開発などに取り組む設計会社・建設会社・専門工事会社・材料メーカーで構成し、設立時の会員数は20社。事務局をKMC（兵庫県西宮市）内に置いている。

設立記念講演会には関係者ら約160人が出席。まず、建設省（現国土交通省）土木研究所振動研究室・耐震研究室室長などを務めた大塚会長（九州大学名誉教授）が「国・地方における橋梁の維持管理の現状と課題」をテーマに講演。その現状について「点検・調査・診断業務の発注費が安い」「早急に明確な架け替え基準と補修・補強設計基準の整備が必要になる」「補修・補強・

架け替えによるライフサイクルコスト比較が重要だが、補修・補強工事による性能回復の適切な評価、補修・補強後の正確な劣化曲線が必要になる」などと指摘した。

リペア会の役割として「特に市町村では土木技術者がいない自治体も多く、維持管理の地域格差が非常に大きい。当会では地方でもきちんとした補修・補強が行われるようにお手伝いをする」ことが大きな目標の一つだ

と力を込め、「今後やるべきことはたくさんある。皆さんのご協力をいただき、いい物をつくっていききたい」と語った。

このあと、西日本高速道路会社の緒方辰男技術部長が「阪神高速道路の維持管理と大規模更新・修繕事業」をテーマに特別講演を行い、高速道路の維持管理を取り巻く課題や、今後の取り組みなどを紹介した。

規模更新」、阪神高速道路会社の西岡勉技術部長が「阪神高速道路の維持管理と大規模更新・修繕事業」をテーマに特別講演を行い、高速道路の維持管理を取り巻く課題や、今後の取り組みなどを紹介した。

最後にリペア会の理事長補佐を務める松永昭吾氏（共同技術コンサルタント福岡支店長）が会の目的や特徴、使命について説明。「熟練技術者にも積極的に参加していただき、ノウハウや知見を若い世代に引き継いでいくことも重要な活動の一つだ。補修・改修はマニアクで暗いイメージもあるが、ぜひとも明るい団体にしていきたい」と決意を述べた。

最後にリペア会の理事長補佐を務める松永昭吾氏（共同技術コンサルタント福岡支店長）が会の目的や特徴、使命について説明。「熟練技術者にも積極的に参加していただき、ノウハウや知見を若い世代に引き継いでいくことも重要な活動の一つだ。補修・改修はマニアクで暗いイメージもあるが、ぜひとも明るい団体にしていきたい」と決意を述べた。

# み立て特別教育

# 講師養成講座開講

(防災防、錢高  
度の事業計画を  
組み立て等特別  
する。建設業安  
座89回、受講者  
、国家資格取得  
の安全衛生担当  
する。防災防支  
部  
「足場の組み立て  
教育」についても  
実施できるよう支  
部  
建設の中核事  
業である建設業  
労  
マネジメントシ  
ス  
コスモス) につ  
建設工事関係者  
連  
などを通じてコ

モス認定事業場に対する  
インセンティブの付与  
を、引き続き公共工事の  
発注者などに働き掛けて  
いく。  
コスモスの国際標準化  
については、関係団体  
との情報を共有、連携し

## 会 橋梁中心の補修全般 リペア ワンストップで提供



地方のお手伝いが最大の  
目的と語る大塚会長

1面関連 8日に設立  
した一般社団法人リペア  
会(大塚久哲会長)。これ  
までは任意団体として、  
コンクリート構造物の防  
水処理を主に、道路(ト  
ンネル・橋梁)、浄水場、  
下水処理場など、新設の  
構造物の工事を請け負  
い、そこで得た経験とノ

て「コスモスガイドラ  
インの解説」などを改訂  
する。  
本部にメンタルヘルス  
アドバイザー(仮称)を  
配置するなど、建設労働  
者のメンタルヘルス対策  
も推進する。建設現場に  
おけるメンタルヘルス対  
策の実施状況を調査する  
とともに、建設現場の職  
業性ストレスチェック  
(無記名)を実施する。

断から補修・補強まで、  
ワンストップサービスの  
提供に乗り出す。  
設立記念式典で特別講  
演の演台に立った大塚会  
長は、「国・地方におけ  
る橋梁の維持管理の現状  
と課題」について持論を  
展開。一般的な構造物の  
経年劣化に対する認識と  
予防保全の関係につい  
て、「損傷・劣化の時系  
列的進行度合いの解明が  
不十分」管理者の財政的  
裏付けにより幅がある」  
と分析した上で、「再劣  
化を起さない本当の長  
寿命化を実現するため、  
より高度な技術開発が必  
要だ」と述べた。併せて、

「特に地方部で不足す  
る、インフラの老朽対策  
に必要な人材やノウハウ  
について、お手伝いをす  
るのが当会の最大の目的  
であり役割だと結んだ。  
このほかの特別講演で  
は、NEXCO西日本技  
術本部技術環境部の緒  
方辰夫構造技術課長が  
「高速道路橋の大規模更  
新」、阪神高速道路会社  
技術部技術推進室の西岡  
勉保全技術担当課長が  
「阪神高速道路の維持管  
理と大規模更新・修繕事  
業」のテーマで、各高速  
道路会社の大規模更新の  
取り組み状況などを説明  
した。

## 竹中工務店 ワンウェイキャピタル構造 舞洲の冷凍冷蔵倉庫に採用

竹中工務店(本社・大  
阪市中央区本町4ノ1ノ  
13、宮下正裕社長)は、  
ニッスイ・エンジニアリ  
ングと共同で開発した  
「ワンウェイキャピタル  
構造」(特許出願済み)

コンクリート造5階建て延  
べ1万9130平方メートル  
に採用した。

同構造は、冷気の流れ  
を考慮し気密性を必要と  
する冷凍冷蔵倉庫に最適  
な「架橋形式」。気流を  
妨げる方向の梁がなく、  
一方で気流と同じ方向に

向けた検証を推奨する」と評 兵衛建設協会の建設者養成

筋コ  
て延  
敷地  
の経  
過  
の進  
増  
の狭  
感  
建  
物と  
な  
る  
計  
画  
で  
る  
山  
現  
に  
新  
舎  
す  
る  
00

平方メートル程度を想定してい  
る。

スケジュールは、16年

度に基本計画を策定、17  
年度に仮庁舎の実施設計  
を行う。18、19年度で新

庁舎の基本・実施設計を  
進めるとともに、仮庁舎  
を建設する。20年度に現

必要性がなくなると、  
スケジュールや事業費が変更  
される見込み。



設立を記念して祝杯を挙げる出席者ら

# 装い新たに！

## メンテ専門集団・リペア会誕生

装い新たに、インフラメンテ  
の専門集団が関西に誕生。橋  
梁などの補修・改修事業に精通  
した材料メーカーや専門工事業  
者・コンサルタント、研究者ら  
で構成する、一般社団法人リペ  
ア会（会長・大塚久哲九州大学  
名誉教授）の設立記念式典が8  
日、大阪市内で開かれた。当日  
は関係者ら約150人が出席。  
大塚会長、NEXCOWest日本、  
阪神高速道路会社による特別講  
演の後、記念パーティーが行わ  
れ、会立ち上げを祝った。

※9面に関連記事

率

81・6%だった。  
9万5689棟と、全  
棟数が最も多い「高齢者  
関係施設」の状況は、総

況は、滋賀県など10県の  
耐震化率が90%を超えて  
いる。残る都道府県はい  
ずれも30%台。司首でま

耐震化率が向上したが、  
いまだ耐震化されていない  
施設などが見受けられ

88棟（別に313棟は  
新耐震基準のため改修  
の必要なし）。政令・中